

『JAL 折り紙ヒコーキ教室』が 10周年を迎えました

私たちが大切に考える4つの分野 ▶ 〈日本と世界を結ぶ〉 〈安全・安心〉 〈次世代育成〉 〈環境〉



折り紙ヒコーキ競技会で
子どもたちが一喜一憂

皆さんは、『JAL 折り紙ヒコーキ教室』をご存知でしょうか？

JALでは2007年からこれまで、折り紙ヒコーキ協会のご協力のもと、折り方や飛ばし方などを教える協会認定指導員をJALグループ社員のなかで約700名育成し、日本各地の小学校などで教室を開催してきました。この教室は昨年11月

す一生懸命な子、記録が伸びて笑顔が溢れる子、思うような結果が出ず悔し涙を流す子、そしてその様子を温かい笑顔で見守るご家族……さまざまな姿がありました。私たちスタッフも、家族のような気持ちで夢中で応援しました。

一枚の紙が生み出す
国境・世代を超えた交流

折り紙ヒコーキは、紙があればいつでもどこでもいろいろな折り方ができ、世代を超えて楽しめ、人との距離を近づけて笑顔にしてくれます。一枚の紙がこんなにも、子どもたちや一緒にいる私たちの心に感動を与えてくれると思うと、あらためて折り紙ヒコーキの奥深さを感じます。そして、JALの飛行機やJALグループのさまざまな仲間のことを子どもたちに知ってもらえる機会でもあります。日本の文化である折り紙ヒコーキをもっと広く世界の方に知っていただきたい。そして世界中の子どもたちが折り紙ヒコーキを通じて交流をもち、一緒に楽しく飛ばしている姿を見続けていきた

上がりました。

このイベントのメインは「JAL 折り紙ヒコーキ競技会」で、東京地区のほか、北海道、東北、九州で予選を勝ち抜いた子どもたちが集まり、折り紙ヒコーキの滞空時間を競い合いました。紙は本当に繊細で、ほんの少し触ったり、投げ方一つ違うだけで飛び方が変わります。子どもたちは各地区のJALグループの指導員と一緒に、この競技会に向けて何度も何度も練習してきました。

いよいよ迎えた競技会では、緊張の面持ちで紙ヒコーキを何度も飛ば

い。そんな思いから、私たちはこれからも活動を続けてまいります。今年度からJAL 折り紙ヒコーキ全国大会、アジア大会、そして2020年には世界大会も開催予定。今後も日本の文化を通じて、笑顔の世界そして未来に届けていきます。

また、このイベントでは「空育®」で実施している「そらエコ教室」、「お仕事講座 パイロット」も同時に開催。制服姿のパイロットが講師となって、日頃心掛けている温室効果ガスの排出量をなるべく少なくするエコなフライトの工夫や、操縦室での仕事の様子、飛行機の仕組み、仕事のやりがいなどをわかりやすくお話ししました。講座の最後には、参加した小学生から「どうしてパイロットになりたいと思ったの？」「これまでに一番きれいだと思った景色は？」などたくさんの質問が。担当したパイロットは自身の経験や思いを込めて、一つ一つ終了時間いっぱいまでお答えしました。

これからもこういった『空育®』を通じ、子どもたちが空の素晴らしさに触れることで、新たな発見やさらなる学びを得て、未来を考える機会を提供していきます。

01.03. 競技会には全国から303名の子どもたちが集結。トーナメント表を見つめる顔は真剣。
02. 「遠くに飛ばすためには、前に押し出すといよいよ」と現役パイロットから飛ばし方のアドバイス。
04. 客室乗務員とも笑顔で交流。

■私たちが取り組むCSR活動に関する詳細は、こちらでもご覧いただけます。

www.jal.com/ja/csr/

■『空育®』についての詳細は下記をご覧ください。

www.jal.com/ja/csr/soraiku/

今回のテーマに当てはまる目標



※P9の「Embrace new Challenges JAL」でも、折り紙ヒコーキの活動についてご紹介しています。

2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的な社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会課題の解決に取り組んでいきます。

